
ランチオンセミナー 1

5月16日(土) 12:20～13:10

第2会場 福岡国際会議場 2F (201)

安心・安全な採血室実現を目指して (RFID 認証システムの導入)

講演者：原 文 子 (鳥取大学医学部附属病院検査部 臨床検査技師長)

司 会：横 田 浩 充 (東邦大学理学部教育開発センター 臨床検査技師課程 教授)

共 催：株式会社テクノメディカ

医療技術の急速な進歩、発展があっても、インシデント発生リスクの全てを回避することはできていない。検査室の中では、検体検査の採血は、日常診療に必須のものであり、病棟、外来で、毎日数多くの採血が実施されている。採血に関するインシデントでは、検体の取り違いや採血管間違い、採血時の注意点の見落とし、などヒューマンエラーによるインシデント事例が多くの施設から報告されている。個別のエラー頻度は低いものでも、病院全体で多数の採血が行われているため、各施設では、エラー回避のため、採血者が人的にチェックを行い、大きなエラー発生につながらないように努力を続けている。

当院の中央採血室は、1日平均350名の外来患者採血を、採血台8台で実施している。採血患者の約8割は午前中に集中し午前8時から1時間100名以上の受付患者の採血を行っている。採血室では、患者確認をはじめとする、採血管本数確認など多くのチェックを行なって採血を実施しているため、多忙な採血時間帯においては、採血者の精神的、肉体的な負担となる状況が続いてきていた。

鳥取大学医学部附属病院では、2015年12月採血室

機器更新を行った。更新に際し、認証ミスなどのヒューマンエラーを回避する採血業務の安全管理をはかるとともに、採血から検査までの検体管理の業務改善を目指し、RFID (radio frequency identification) ラベル患者認証システムならびに検体情報統括管理システム (TRIPS、u-TRIPS) を導入した。

システム構成は自動採血管準備装置 (パッキング機能付) BC・ROBO8000-RFID (30管種) 1台、自動採血・採尿受付機2台、採血架台8台、自動昇降採血台8台、RFID 検体情報統括管理システム (TRIPS)、RFID 尿検体情報管理システム (u-TRIPS) である。

新システムでは、RFID ラベルによる患者認証システムの導入により、患者確認や採血管確認が短時間で確実に実施可能となった。また、TRIPSは検体の動きをリアルタイムに追うことができるため、従来では、診療科からの検査結果の遅延の問い合わせがあり、初めて気づいていた検体の紛失などのトラブルを、検査室が、より早く知り対応できるものと期待している。

導入から短期間ではありますが、導入ならびに運用に際する経験を報告させていただき、皆様の施設にとって今後の業務改善の参考となれば幸いである。